

ふによい書き方である。

よく考へて見るミ、先生ミ子供ミが一緒に聲をたて、笑ふミいふ場合は、さう多くあるものでは無い。製作ミか、觀察ミか、遊戯ミかの場合に笑つてはゐられない。まつ談話の折が最もよい機會であらう。何かにつけてユーモアの含まれてゐるのは、すべて事がなめらかに運ばれてよいので、お話の折には内容からでも、又は話方にでもこれを留意しなければならぬと思ふ。

第八週

栗 吟誦

小さな緑の家^{ウチ}があり

小さな緑の家の中に

小さな茶色の家があり

観 察

第四週

小さな茶色の家の中に

小さな黄色の家があり

小さな黄色の家の中に

小さな白い家があり

小さな白い家の中に

小さなころろがあつたさ

これは謎である、片カナで、黒板に書いておいて、みんな一緒に讀んで見る。この頃になるミ、しきりに字を讀みながら、一人で讀んでゐるのも見かける。

謎ミ云つてもたゞこれだけ讀んでゐるのではすぐわからないので、終りに小さく、「タリ」ミ添へ書きをしておく。

そして、幾度もこれを繰り返してすつかり覺えてしまつてから、栗の中の小さなころろが何であるかを聞いて見たりする。

ふらふら

他の果實ミ一しよに寫生なごし乍ら比較して觀察させる。

コスモス 年少組參照

第五週

野菜

誘導保育で野菜を作るこゝからさせる觀察である。花ごか果物は觀察の機會に恵まれるが野菜はそれ程でない。八百屋ごつこなごすれば必然的に出来る觀察であるが、そうでなくとも一度は都會の子供には野菜を手にとつてみさせ度い。特別珍しいものでなく最も普通なものを。そして食べるこゝに結びつけて、ごこをたべるか、(根ごか葉ごか實ごか)何んなにして食べるか等話合ふ。この場合は製作だご寫生させてもよい。

第六週

ダリヤ

菊の觀察の時ご同時にしてもよい。若しお庭に咲いてゐるなら球根をほり上げる事を子供ミ一しよにしてダリヤのお芋も觀察させやう。

時計のいろく。

誘導保育で鳩時計をつくる事から時計の觀察をする事になる。年長組のこの頃になれば時刻に關心を持つ子供も多くなるし時計のわかる子供も出て来る。時計の見方は殊更に教へなくても遊びの中に時計をこしらへてその針をうごかして、今何時ミいふ遊びをしてゐるご自然によくおぼえられるものである。鳩時計も一種の特別な時計であるが時計では形のいろくちがつたのがあるこゝは子供達もよく知つてゐる。それで子供達の知つてゐる時計を書かせて見る。お家にどんな時計があるかみていらつしやいご豫め言つて置いてかゝせるのもよい。又幼稚園の中にある時計を順にみて廻る。そして比較觀察させる。若しも子供達の中につくり度いミいふものがあれば、文字板ご針だけの時計をボール紙でつくらせるのも面白いおもちやミなるであらう。

第七週

草花のたね

春の種まきご秋の取入れは一對の連絡ある仕事である。

春まいて伸びるのを見、花を樂しみ、結實を知ればたねを取るのには當然のこゝみである。子供達はその各々が新しく別な經驗であるにしてもそこには仕事として連絡のあるこゝみであつて全然別のこゝみをしてゐるのではないのである。こゝみスモスにしても朝顔にしても、今は取入れを待つてゐる。

午前中一ぱいをお部屋での仕事に過した日の午後なご、みんながお庭に出て取入れをしやう。それには豫め小さな箱なり、袋なり數種用意し、取つた種子を別々に分けて入れる様にする。取る時、種子の入り方をみせて置き、みり方を注意する。そして草の名と種子の形を結びつけて見させ、各々の形を比較させる。全部取入れられたら後の草の始末も一しよにしやう。そして片附けが済んだら各々の種子がいくつ取れたかを數へる。松葉牡丹の様な細い種子は出來ないけれど、朝顔やコスモスの様なものは出來る。朝顔は一つ果實に種子がいくつかを取る度に數へさせるこゝみ、以下の數の比較をさせる事が出來る。あんまり數多く四十五十になる場合は勿論先生が主になつて數へるのである。斯うして數へたものは少しを幼稚園に残しみんなに分けて

もつて歸るのも子供達にしては大きな喜びであらう。

稻と米

稻を知らない都會の子供が可成りある。御飯になつたものでなければお米も知らない子供があるかも知れない。理科教授的に皆お米の出來る草をいきなり持出すのもさうであらうか。これも話合ひの間に計劃して觀察させるこゝみであらう。月曜日の朝なご、折から秋晴れの野山をハイイクするによい頃であるから日曜日のこゝみなご話し乍ら「先生はきのふ……」といふ様に、一本の穂をつけた稻をみせて穂を見せ、中のお米をみせ、玄米と白米を手短かに、この中の黒つぶいお米は皮をかぶつてゐてかたいからこの皮をこつてみんなのたべられる様な白いお米にするといふ事を白米と比較して見せて話す。こんなのも一つの方法であらうと思ふ。序にいなごなきもみせてもよい。

建築中の建物、起重機の昇降

ぐつと異つた趣をもつ觀察材料である。機械時代に生れた子供達、都會の子供なら一層機械に興味をもつてゐる。

これは附屬高女の校舎を建築してゐたので近くに全くよい場面があつたわけである。一日中ガラ／＼大きな音をたて、昇降する起重機はうるさいといへばそれ迄であるがみてゐるに建設の雄々しい力強さが迫つて感じられて来る。大きな鐵骨が不格好に荒つぱくたてられてゐたのが次第にセメントをつめられて建物が形づくられて行く。これを仕事の邪魔にならぬ様な位置で時々子供達を一しよに見

手
技

第四週

自由畫 誘導保育案による人形の家の額の畫をかく

缺仕事 一回

コスモス 年少組にもこの材料にて缺仕事をしたが年長組にしてそれよりも、稍々細かく花の數、葉の數なごも多くなる。

製作 人形の家のつゞき

數物 前週のものつき 四回

る事は口に言へない近代的な息吹を感じるものである。こんな時は言葉少なく唯見てゐる丈けでよい。質問に確實に答へられる様な用意があつて問ふた事に答へてやる丈けで説明は殊更にしない方がよいと思ふ。

自然觀察とは別な意味をもつた斯うした物といふよりうごき、情景の觀察を機會ある毎につかまへてさせ度いものである。

果物の下繪だけ出来上りその上に別の布に各種果物をつくりて大きな數物の布にぬいつける。一の數物でも大きなテールの上にのせて四方から仕事をするわけである男女兒入りまちつて、ぬつてもよいし又女兒だけでもよい。

第五週

自由畫 三回

衝立の畫用としてかゝせる、額の畫なご、同じ幼児の作品にならないやう、又材料なごもなるべく異なつたもの